表 シカゴ連銀経済報告（2020年9月2日公表）

項目	動向	関係者報告・背景
雇用と賃金	雇用は力強く（strongly）回復。 賃金はわずかに（slightly）上昇	雇用は全体的に力強く回復した。給与保護プログラム（PPP）により雇用の継続が可能となり、経済活動が回復する中で新たに労働者を探す手間が省かれているとの声が聞かれた。多くの製造業では、新型コロナウイルスの感染や濃厚接触者の自己隔離による欠勤率の上昇により、雇用水準が通常より高くなっている。失業保険の充実により望ましい賃金水準に戻すことが難しいとの報告も前回に引き続きみられた。賃金はわずかに上昇しており、福利厚生費も上昇している。
物価	控えめに（modestly）上昇	物価は今後12カ月で控えめに上昇することが予想されている。消費者物価は、自動車価格の上昇に牽引され、控えめに上昇した。食品・飲料はやや下落した。生産者物価はわずかに上昇した。仕入れ価格は、原材料や輸送費の上昇に牽引され、控えめに上昇した。
個人消費	控えめに（modestly）上昇	多くの分野で新型コロナウイルスまん延以前のレベルに近づいている。非自動車販売は控えめに上昇し、オンライン学習のための電化製品やスポーツ用品においては堅調な消費がみられるが、アパレルや学用品の販売は不振となっている。食品雑貨や日曜大工用品の売れ行きは横ばいとなっている。自動車販売は非常に強い消費がみられた前回報告時からはわずかに落ち込みがみられる。娯楽産業については新型コロナウイルスまん延以前の状態には戻っていないものの、特にホテルやレストランにおける消費の増加が見られた。
企業支出	わずかに（slightly）上昇	小売店の在庫は、軽トラック、ボート、RV車、食品雑貨に関しては減少しているが、必須（エッセンシャル）ではない商品の小売店では在庫を抱えないようにしているとの声が聞かれた。全体として製造業においては在庫がやや過剰となっている。設備投資については、ほとんど変化はなく、年内の設備投資拡大の計画を中止したとの声が多く聞かれた。航空輸送が控えめに増加しているが依然として低い水準のままである。商業・産業用のエネルギー消費は控えめに上昇した。
建設と不動産	控えめに（modestly）上昇	住居建設に関して、郊外の核家族用住居の建設が控えめに増加したのとは対照的に、住居用不動産の活動は大幅に増加した。低金利が需要を支えているとの声が聞かれた。また、より広いリビングのある家への需要が増加しているとの声が多く聞かれた。核家族用の住居の在庫が減少していることに伴い、住居用不動産の価格は控えめに上昇した。商業用の不動産に関しては、建設は増加しているものの依然として低調であった。商業用の不動産の活動は小売りやオフィスの需要が減少しているため、控えめに減少した。産業用の不動産に関する需要は堅調であった。賃料は全体的に控えめに下落している。また、商業用不動産の販売は低調で価格は控えめに下落した。不動産価格がさらに下がるのを待っているといった声も聞かれた。
製造業	力強く（strongly）増加	自動車の製造は、前回報告時より劣るものの、急激に増加した。鉄鋼の生産は、自動車産業や建設業の需要に牽引され、控えめに上昇した。重工業については鉱業やエネルギー部門における需要が減少したためわずかに減少した。特殊金属の生産は、自動車、医療、食品製造業分野の需要増により控えめに上昇した。大型トラックの需要も依然として低い水準ではあるものの増加した。建設資材の製造業は出荷量において控えめに上昇した。
金融	控えめに（modestly）改善	株式および債券市場参加者においては、ボラティリティ（変動性）が高まっているものの、状況は改善している。ビジネスローンの需要は控えめに減少している。給与保護プログラム（PPP）により現金に余裕があるものの、新たな設備投資は控えているとの声が聞かれた。娯楽産業、小売業、商業用不動産業、ヘルスケア産業において、ビジネスローンの質が控えめに悪化している。ビジネスローンの基準は控えめに引き締められている。消費者ローンの需要は住居の購入やローンの借り換えに牽引され、控えめに増加した。消費者ローンの基準はわずかに引き締められたものの、質はやや改善した。
農業	新型コロナウイルスまん延による 収入減への対処が継続	新型コロナウイルス支援・救済・経済安全保障法（CARES法）による農産物の損失額の補償支援が行われているものの、収入減への対処を継続している状況である。これに加えて、暴風雨により、農作物（特にトウモロコシ）、貯蔵施設、家畜施設への被害が生じている。一部のエリアでは干ばつも報告されている。しかしながら、依然としてトウモロコシと大豆の生産量は過去最大に近くなると予想されている。トウモロコシの価格は変動が小さかった（一年前の価格を下回る水準）が、大豆の価格は上昇（一年前の価格を超える水準）した。牛肉、豚肉の生産は新型コロナウイルスまん延による生産減少分を取り戻しているところであり、処理（と畜）を待つ家畜の在庫も減少した。牛、豚の価格は上昇しているものの、一年前の水準を超えていない。牛肉やチーズは供給が落ち着いたことで、価格が下がった。

（出所）シカゴ連銀経済報告を基にジェットロ作成